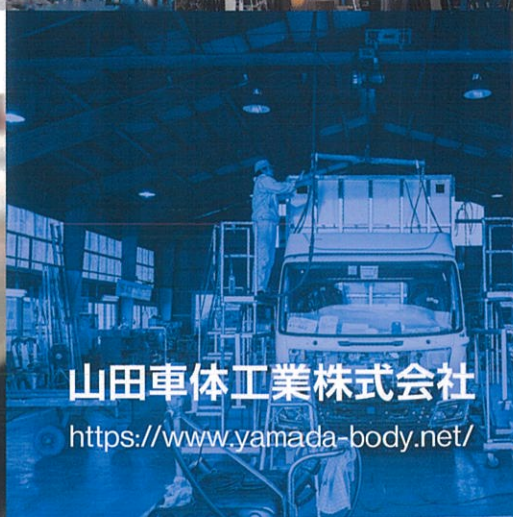
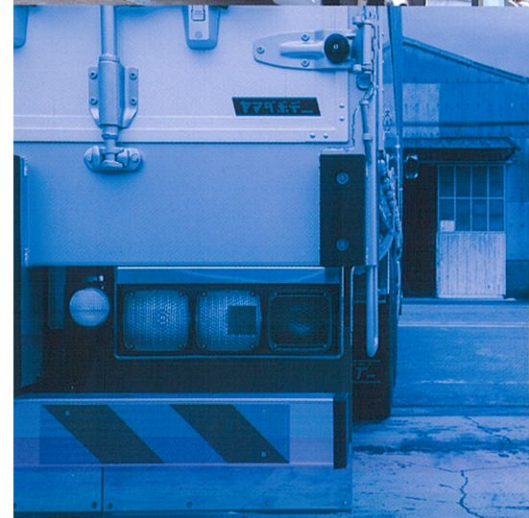
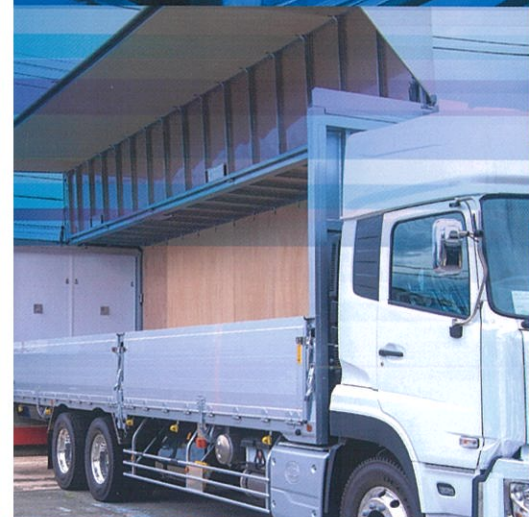


C O M P A N Y P R O F I L E

YAMADA BODY

一つひとつのニーズに応える、未来を見据えた進化を。



山田車体工業株式会社

<https://www.yamada-body.net/>

進化しつづけるヤマダ

私たち山田車体工業(略称ヤマダボデー)は、
1946年の創業から一貫してトラックボデーの開発と製造に邁進してきました。
木骨で車体を作っていた当時から、ニーズに合わせた多種多様なボデーを製造する現在に至るまで、
培ってきた高い品質と技術が私たちの誇りです。
業界のパイオニアとして、物流業界と地域社会に貢献できる企業であるために。
私たちはこれからも進化をつづけていきます。

経営理念

01
社 是

わが社の目的は、
お客様の要望に応じて、確かな品質の
使いやすい製品を生産し、
地域社会、物流社会に
貢献することである。

02
社 訓

誠 実
実 行
親 和

03
基本方針

物作りを基本とし
良い物を 速く安く作る
常に研究 常に努力
仕事を愛し
職場を明るくすること

私たちが目指すもの

創業から「誠実・実行・親和」を企業理念とし、トラックボデーの開発と製造を通して、物流業界、そして地域社会に貢献できる企業であるべく努力してまいりました。

物流業界は日々変化し、トラックボデーにおいても実に多様なニーズが生まれています。それを的確に捉え、「ニーズをカタチにする」をモットーに、永年の経験と豊富なノウハウによる高い完成度の製品づくりと高いレベルのサービスの提供をもって、時代が求める幅広いニーズに応えていくのが私たちの使命です。

業界のパイオニアとしての責任と、量より質を求める創業の原点、そしてヤマダにしかできない高い技術。それらの遂行、堅守、確立を目指しながら高い付加価値のある商品を開発・提供していくことが、お客様の深い信頼につながっていくと確信しています。

今後も誠心誠意、お客様に喜んでいただける高性能、高品質の製品づくりに徹することで、明日の物流業界を牽引していく「進化しつづけるヤマダ」でありたいと思います。

また、自然にやさしい環境づくりを踏まえたEcoAction 21を推進し、製品や製造過程において地球環境に配慮した取り組みをつづけていきます。

代表取締役社長 山田 和典

ヤマダの製品

1台1台をオーダーメイドで。

荷役時に天井クレーンやラフターなどを使って作業できる自社開発のオーバートーンウイング「Zフラップ9:1」をはじめ、物流の主力であるフラップ(ウイング)車の各種応用製品、様々な機能を持たせた平ボデー、カーテン車など、お客様のニーズに合わせて多彩なトラックボデーをオーダーメイドで製作いたします。



クオリティーにこだわるボデーづくり

設計から完成まですべて自社で完結。

設計から部品製作、加工、組立など、完成までの全工程を自社で行っています。お客様の様々なご要望を営業部門と技術部門が検討し、設計情報に落とし込み、それをもとに製造部門が知恵とノウハウを駆使して製作。ボデーづくりへの探究心とチャレンジ精神を大切にしながら進化をつづけています。



技術と情報の共有による、さらなる進化

IT技術の積極的導入で、業界のスタンダードに。

社内のネットワーク環境を整え、全国の拠点をつなぐWeb会議の実施や情報共有を効率化。開かれた社内コミュニケーションによる製造技術の進歩・向上を図っています。また、社員の就業環境を改善する先進的な取り組みにも力を入れ、業界をリードし、働く環境の新たなスタンダードになることを目指しています。



製造工程

お客様

仕様打合せ

設計図面作成

部品加工

鉄工

組立

塗装

仕上

検査

納車

会社概要

会社名	山田車体工業株式会社(略称ヤマダボデー)
創業	1946年 2月
設立	1956年 2月
本社所在地	〒410-0874 静岡県沼津市松長字改正600番地 TEL.055-966-0815 FAX.055-966-7474
代表者	取締役社長 山田 和典
資本金	4,250万円
従業員	合計282名(2023年8月末現在)

Flatbody

平ボデー

最もポピュラーで汎用性の高い平ボデーでは、建材や鋼材など資材や重機運搬などの様々な貨物や目的に合わせたボデー製作が可能です。クレーン付車や耐久性に優れたスウェーデン鋼を用いたボデーなど、実に多様な製品を展開しています。

平ボデー



ポンベ運搬仕様 平ボデー

クレーン付き



主にキャブバックにクレーンを搭載したボデーです。建材用、造園業用など幅広い用途で活用できます。

スクラップ運搬車 耐摩耗鋼板仕様

チップ運搬車



製紙原料や家畜飼料、穀物などのチップ運搬をするためのボデーで、積み込みダンパーなどで上部からの積み込みが可能です。

アコーディオン



カーゴボデーのサイドゲート上部にアコーディオン式の幌が付いており、天井走行クレーンなどからの積み下ろしが容易です。

重機運搬車



重機などを運搬する目的で、キャブバックにボデーを傾斜させるための油圧式アウトリガーを取り付けしたボデーです。後部に取り付ける導板は、ボデー下部に格納させます。

温度管理が必要なものの運搬に適し、物流の主力でもあるフラップ(ウイング)では、多様な貨物や荷役における様々な状況に対応できる製品を用意しています。貨物の温度を一定に保つ、背高貨物の積み込みなど、あらゆるニーズに対応します。



フ ラ ッ プ



標準フラップ



カーボンパネル・冷凍フラップ

“フラップ定温輸送シリーズ”は、鮮魚類・生鮮青果・花卉物輸送をはじめ、超精密機器運搬などに実力を発揮します。各セクションに専用シール剤を使用し密閉性を高め、断熱材にはポリウレタンフォームを採用した現場発泡やパネルフォーム、各種サンドイッチパネルを用いて優れた断熱性能を実現。通常+5℃～-5℃(参考値)までを安定して維持することができます。

フルリフト・冷凍フラップ(冷凍車・温度管理車)



フルリフト・カーボンパネルウイング・温調車

ルーフ全体を700ミリリフトできるフラップで、特にフォークリフトによるサイドからの背高貨物の積み込みに適しています。背高パレットの積み下ろしや、サイドからのハイマストフォークによる荷役には、ルーフ全体が700ミリ昇降するフルリフト車が最適です。特に製紙用巻取りの運搬業務から好評を得ています。

リアリフト



チップフラップ



フラップポテアのルーフからチップを投入する当社オリジナルのチップ車です。製紙原料などの貨物を上部より積み込みダンパーなどで降ろします。ヤマダだからこそできる万能チップ車で、帰り荷を選ばず、効率のよい輸送を可能にします。

反転ルーフ(片側)



90度羽根を開いたあと、更に別シリンダーでルーフを反転させるフラップで、工場内天井走行クレーンからの荷役を可能にするポテアです。片反転、片反転センターオフセットがあります。



ルーフの後方を400ミリリフトできるフラップで、特に後部からの背高貨物の積み込みに適しています。荷役作業機リフトゲート架装時など、後部からの背高商品の積み込みを行う場合、後部アーチを400ミリリフトし、後部開口高さを広げることができます。

反転ルーフ(両側)



90度羽根を開いたあと、更に別シリンダーでルーフを反転させる機能を両側に搭載したポテアです。



その他

様々な用途に対応できる多彩な特殊車両も数多く展開しています。様々なタイプの重機を運ぶことのできるスライドボデーや家畜を運ぶ家畜運搬車など、目的や要望に合わせて1台1台オーダーメイドでのボデー製作が可能です。

Zフラップ



大きくて重たい貨物の荷役時に天井クレーンやラフターなどを使って作業できる、自社開発のオーバーターンウイング車です。センターフレームの位置を9:1の部分へ設置し、天井部分の開口を2100ミリ以上確保することができます。また反対側もルーフが167度上がり、フォークリフトでの荷役が可能で、通常のウイングとして使用することも可能です。

スライドボデー



サイドカーテン車



荷台空間を最大有効利用可能なデザインになっています。サイド壁面は高強度なシートのみ。強靱なベルトとバックルで強力にサイドシートをサポート。ラチェット式のハンドルはサイドシートに適度なテンションを与えます。軽量のボデーは積載量もアップ。効率の良い運送形態をバックアップします。



トラックの約8割がサイドカーテン車であるニュージーランドにおいて、その中の約8割のシェアを占めているのがストラクチャーフレックス社製のカーテン車です。そのストラクチャーフレックス社と技術提携し、当社が発売しているカーテン車です。

バン



原木運搬車



家畜運搬車



鶏運搬車



豚運搬車



牛運搬車

基本的にカーゴボデー後に自動起立型の導板を取り付けた車両です。運搬する家畜に配慮し、通気性を考慮した仕様になっています。リア導板は電動ウインチによって、自動で起立することが可能です。

環境への取り組み より良い未来の為に…

環境方針

当社は「お客様の要望に応じて、確かな品質の使いやすい製品を生産し、地域社会・物流社会に貢献することである」の企業理念のもと、地域社会の一員として自然環境保護、さらには地球環境保護に積極的に取り組むことにより社会に貢献できる企業を目指します。

基本方針

- 01 環境マネジメントシステムの構築を図り、その適切な運用により環境保護に結びつくよう、継続的な改善を目指します。
- 02 当社が行う事業活動に於いて、環境に影響を及ぼす要因の中で、次のことを重点テーマとして取り組みます。
 - 二酸化炭素排出量の削減
 - 工場廃棄物排出量の削減
 - 節水への取り組み
 - 化学物質排出量の削減
 - グリーン購入の推進
 - 環境に優しいトラックボデー造り
- 03 環境に関する法律、規制及び組織が認める外部からの要求事項を厳守します。
- 04 従業員への環境教育を実施し、環境方針の理解と環境に関する意識向上を図ります。



品質情報

解体・メンテナンス情報の共有

車種ごとの使用済み架装物の解体に関して、適性且つ安全に処理するための手順をまとめた解体マニュアルや様々なメンテナンス情報を、当社ホームページに掲載しています。

※解体マニュアルは参考資料としてご提供するもので、実際の解体作業においては解体事業者様のご判断により進めて下さい。



解体マニュアル・メンテナンス情報は
こちらから >>>>

アフターサービス網



当社のアフターサービス拠点は、グループ拠点のみならず契約会社を含め全国に広がっています。お客様の満足度向上を常に目指しており、アフターサービス体制の強化に努めています。ご不明点等がございましたらまずはお近くの当社拠点までご連絡ください。



お問い合わせフォーム
はこちらから >>>>

沿

革

- 1946年2月 静岡県沼津市三枚橋にて、木骨を主体としたトラックの運転台及び荷台の製作を主業として、山田恒策が個人創業
- 1951年2月 静岡県沼津市本錦町に、有限会社山田ボデー設立、代表取締役社長に山田恒策が就任
- 1956年2月 山田車体工業株式会社に改組資本金150万円
- 1961年8月 横浜市戸塚区に、オールスチール運転台の量産工場として、横浜工場を新設
- 1964年4月 シャーシメーカー向け中小型平ボデーの量産開始
- 1964年10月 静岡県沼津市松長に本社及び沼津工場を新設移転
- 1969年4月 資本金4250万円に増資、中小型平ボデーの量産、月産1000台達成
- 1969年8月 宮城県富谷町に仙台工場を新設
- 1971年2月 茨城県茨城町に水戸工場を新設
- 1974年5月 三八五貨物自動車運送株式会社(現在の三八五流通株式会社)と業務提携し、青森県五戸町に東北山田車体工業株式会社設立
- 1975年4月 フラップボデー生産開始
- 1983年1月 代表取締役社長に山田健雄が就任
- 1983年6月 ルーフ全体昇降機能付きフルリフトフラップ生産開始
- 1985年1月 ルーフオーバーターン機能付き反転ルーフフラップ生産開始
- 1986年4月 フラップボデー生産累計1000台達成
- 1988年11月 シャーシメーカー向け中小型平ボデー量産終了
- 1992年9月 フラップボデー生産累計5000台達成
- 1999年4月 フラップボデー生産累計10000台達成
- 1999年12月 横浜工場閉鎖
- 2002年10月 第36回東京モーターショーに、フルリフトフラップ出展
- 2003年4月 代表取締役社長に山田和典が就任
- 2005年9月 障害者の雇用・促進・職業の安定に貢献し、厚生労働大臣より表彰
- 2007年9月 本社沼津工場が環境マネジメントシステム「エコアクション21」認証取得
- 2009年3月 「環境基準適合」ラベル(平ボデー車)取得
- 2009年6月 「環境基準適合」ラベル(ドライウイング車)取得
- 2009年9月 関連事業所、水戸工場が環境マネジメントシステム「エコアクション21」認証・登録
- 2009年9月 本社沼津工場において鉄工第1工場・鉄工第2工場 新築2棟完成・稼働開始
- 2010年12月 「環境基準適合」ラベル(冷凍ウイング車)(サイドカーテン車)取得
- 2012年4月 日本自動車車体工業会取り組み基準の環境負荷物質(SOC4物質)フリー化達成
- 2012年9月 関連事業所、仙台工場が環境マネジメントシステム「エコアクション21」認証・登録
- 2015年9月 神奈川県厚木市に神奈川営業所を新設
- 2016年7月 神奈川県愛甲郡に神奈川工場を新設(神奈川営業所も同所に移設)
- 2016年10月 「新環境基準適合」ラベル(平ボデー車)取得
- 2016年11月 宮城県仙台市に仙台日の出町工場を新設
- 2017年10月 第45回東京モーターショーにZフラップ9:1出展
- 2017年12月 経済産業省より「地域未来牽引企業」に選定される
- 2020年1月 有限会社小田切車体(秋田県大館市)の全株式を取得、当グループ企業に
- 2023年10月 ジャパンモビリティショーに温度管理フルリフトフラップ出展

拠 点 情 報

静岡県沼津市におく本社工場を中心に7つの拠点を全国に展開しています。
2020年1月には、秋田県と岩手県に拠点を置く有限会社 小田切車体が新たにグループ企業に加わり、製造体制がさらに強化されました。
地域に密着したトラックボデーメーカーとして、お客様に近い場所で、多様なニーズにスピーディにお応えし、高品質でより使いやすいトラックボデー製品を提供してまいります。

<有限会社 小田切車体(グループ企業)>

本社沼津工場

〒410-0874 静岡県沼津市松長字改正600番地
TEL. **055-966-0815** FAX. **055-966-7474**
info@yamada-body.co.jp



神奈川工場

〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津6789番地の1
TEL. 046-280-6341 FAX. 046-280-6342
d-itou@yamada-body.co.jp



水戸工場

〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡3652番地の85
TEL. 029-292-1247 FAX. 029-292-1227
mito@yamada-body.co.jp

大館工場

〒017-0877
秋田県大館市立花字山田渡
196番地
TEL. 0186-42-6222
FAX. 0186-43-0530



岩手工場

〒028-0116
岩手県花巻市東和町北成島1区
85番地1
TEL. 0198-42-1007
FAX. 0198-42-1030



仙台工場

〒981-3302 宮城県富谷市三ノ関68番地の3
TEL. 022-358-3171 FAX. 022-358-3175
sendai@yamada-body.co.jp



仙台日の出町工場

〒983-0035
宮城県仙台市宮城野区日の出町
1丁目4番15号
TEL. 022-352-1047
FAX. 022-352-1048
hinode@yamada-body.co.jp

ヤマダボデー

山田車体工業株式会社

<https://www.yamada-body.net/>

ホームページ
はこちらから >>>>

